

一般社団法人 日本看護系大学協議会
看護学教育評価検討委員会企画ワークショップ
看護学士課程における学生のコンピテンシーの育成
令和2年2月16日

「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の大学での活用例

「基礎看護学での活用」

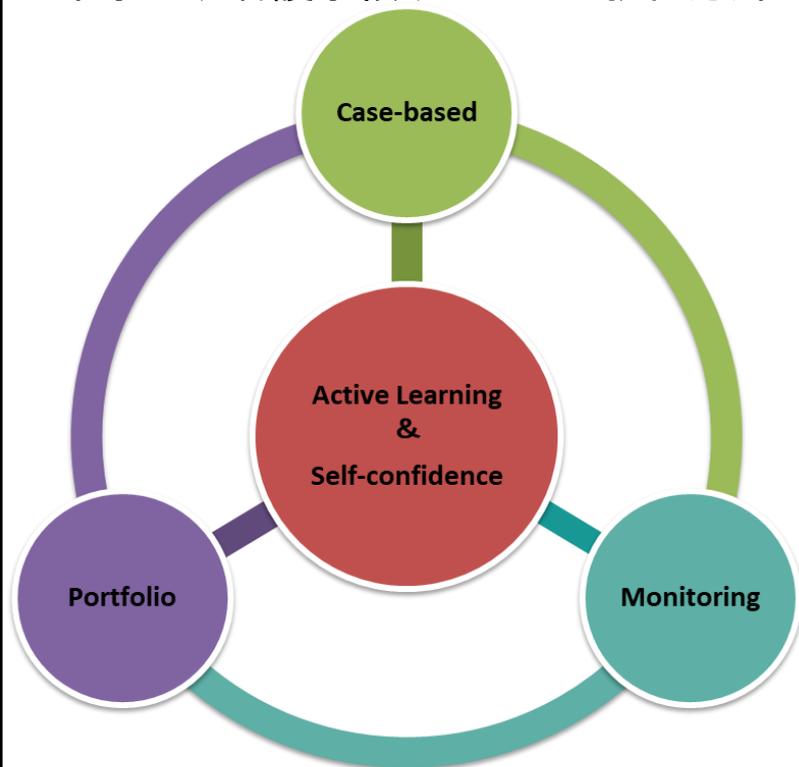
初年次学生が「馴染む」ための取り組み

1. 取り組みの前提
2. 活用イメージ
3. 取り組み
4. 今後の課題

日本赤十字広島看護大学
基礎看護学 川西 美佐

1. 取り組みの前提

本学基礎看護学領域における教育方針



これまでの課題

- 学生は「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」を知っているが、自身の能力の積み上げを自覚できていない。
→学生自身が学修成果を主体的にマネジメントできるようにしたい。
- 教員が教えたことだけ教えているのでは？
学生のコンピテンシー育成に役立っているか？
→教員として自身の教育内容をチェックしたい



「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」を活用して
教員として実感したこと

- 授業改善のヒントの宝庫になる。
(PDCAサイクルに活かせる)
- ・科目構成・授業構成の道標になる。
- ・自身の教育内容の取捨選択ができる。
- ・授業評価となり、授業改善に役立つ。

2. コアコンピテンシーと卒業時到達目標の活用イメージ

学部教育

卒業後将来的に

創る

使いこなす

- ・コンピテンシーの作成過程の理解
- ・先の世代のコンピテンシーの創造

- ・カリキュラム全体での体系的な整理
- ・学生による目標と到達度評価のセルフマネジメント
- ・教員による目標と到達度評価に基づくカリキュラム評価（教員相互評価）

1年次前期,後期
「看護学概論Ⅰ,Ⅱ」

馴染む

- ①科目学修内容との対比提示
- ②授業単元目標との対比提示
- ③科目終了時の到達度評価
- ④到達度の共有

知る

- ・基礎ゼミでの説明
- ・看護実践能力育成に関する説明

現在の取り組み

3. 初年次学生が「馴染む」ための取り組み

■ 1年次前期,後期必修「看護学概論Ⅰ,Ⅱ」

①科目学修内容との対比提示

- ①科目学修内容との対比提示
- ②授業単元目標との対比提示
- ③科目終了時の到達度評価
- ④到達度の共有

表1. 看護学士課程におけるコアコンピテンシーと看護学概論の学修内容の対比

	看護学概論	
	I	II
I群 対象となる人を全人的に捉える基本能力		
1. 看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力	○	○
2. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力	○	○
3. 人間を生活者として理解しアセスメントに活かす基本能力	○	○
II群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力		
5. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	○	○
6. 実施する看護を説明し意思決定を支援する能力		○
7. 援助的関係を形成する能力		○
III群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		
8. 根拠に基づいた看護を提供する能力	○	○
9. 計画的に看護を実践する能力	○	○
11. 個人と家族の生活をアセスメントする能力		○
IV群 特定の健康課題に対応する実践能力		
14. 健康の保持増進と疾病を予防する能力	○	○
V群 多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力		
18. 地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力	○	
19. 保健医療福祉における看護の質を改善する能力	○	○
20. 地域ケア体制の構築と看護機能の充実を図る能力	○	
21. 安全なケア環境を提供する能力		○
22. 保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力	○	○
23. 社会の動向と科学技術の発展を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	○	
VI群 専門職として研鑽し続ける基本能力		
25. 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力	○	○

日本看護系大学協議会(2018). 看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標
<http://www.janpu.or.jp/2018/05/31>

3. 初年次学生が「馴染む」ための取り組み

■ 1年次前期,後期必修「看護学概論Ⅰ,Ⅱ」

②授業単元目標との対比提示

- ①科目学修内容との対比提示
- ②授業単元目標との対比提示
- ③科目終了時の到達度評価
- ④到達度の共有

2019年度看護学概論Ⅰ 第4回

2019年5月8日

川西 美佐

【方法論】保健・医療・福祉における看護

本時の目標

1. 健康のとらえ方と日本における国民の健康づくり対策の変遷について説明できる。

IV群 14. 健康の保持増進と疾病を予防する能力

(1) 健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法を指導のもとに実施できる。

- ①健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法
(ヘルスプロモーション、プライマリーヘルスケア)

2. 日本の保健医療福祉制度ならびにシームレスなサービス提供のための医療改革について説明できる。

V群 19. 保健医療福祉における看護の質を改善する能力

(1) 保健医療福祉における看護サービスを提供する仕組み、看護の機能と看護活動のあり方について理解できる。

- ①保健医療福祉制度および看護サービス提供の仕組みと組織
(保健医療福祉制度と法律、看護の機能)

V群 18. 地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力

(3) 療養場所を移行するための看護の役割と機能について説明できる。

- ②療養場所を移行する人と家族の理解と看護
(病院の機能分化と在宅移行、在宅移行支援と看護、退院調整における看護師の役割)

V群 22. 保健医療福祉チームの一員として協働し連携する能力

(3) 地域包括ケアを推進する必要性を理解し、地域包括ケアの中の看護の役割と機能について説明できる。

- ③地域包括ケアと看護
(社会保障の現状と地域包括ケアの必要性、地域包括ケアの推進と看護)

コンピテンシー
卒業時到達目標
教育内容の大項目
(教育内容)

3. 初年次学生が「馴染む」ための取り組み

■ 1年次前期,後期必修「看護学概論Ⅰ,Ⅱ」

③科目終了時の到達度評価

➤ 科目終了時に学生による「卒業時到達目標」の自己評価調査を実施

- ①科目学修内容との対比提示
- ②授業単元目標との対比提示
- ③科目終了時の到達度評価
- ④到達度の共有

【到達度評価の目的】(調査票に提示)

看護学概論Ⅰでは、「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」の卒業時の到達目標全66項目のうち、次表15項目の「卒業時の到達目標」を学修しました。
自己の成長を実感し、今後の学修への課題を明確にするために、目標の到達度を自己評価してみましょう。

4段階で評価

1. 到達していない
2. あまり到達していない
3. まあまあ到達した
4. ほぼ到達した

看護学概論Ⅰでの学修における「看護学士課程におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」の到達度評価(一部抜粋)

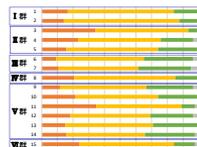
コアコンピテンシー	卒業時の到達目標(成果)	看護学概論Ⅰの本時の目標	設問番号
Ⅰ群 対象となる人を全人的に捉える基本能力			
1. 看護の対象となる人と健康を包括的に理解する基本能力	(1)人間や健康を包括的に捉え説明できる。	第2, 3回 看護における人のみかた、看護と人々の健康・生活 1. 現在の日本において看護が活動する場を想起したうえで、看護が関わる対象について説明できる。	1
2. 人間を生物学的に理解しアセスメントに活かす基本能力	(2)人間の心身の変調とそれに伴う心身の反応を説明できる。	第8回 認知症がある人とのコミュニケーション 1. 認知症の症状ならびに認知症がある人のストレスによる反応や行動反応について説明できる。	2
Ⅱ群 ヒューマンケアの基本に関する実践能力			
5. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	(1)多様な価値観・信条や生活背景を持つ人を尊重する行動をとることができる。	第9回 模擬患者とのコミュニケーションに関するシミュレーション 2. 患者の思いを受け止め尊重する姿勢を示しながら、病床環境を整えるための提案を伝えることができる。	3

3. 初年次学生が「馴染む」ための取り組み

■ 1年次前期必修「看護学概論Ⅰ」

④到達度の共有

- 到達度のクラス集計グラフを配布し、全体の傾向を解説



- ①科目学修内容との対比提示
- ②授業単元目標との対比提示
- ③科目終了時の到達度評価
- ④到達度の共有

「到達した」

到達目標

- 85%以上
- I 群 2.(2)人間の心身の変調とそれに伴う心身の反応を説明できる。
 - II 群 5.(1)多様な価値観・信条や生活背景を持つ人を尊重する行動をとることができる。
 - IV 群 14.(1)健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法を指導のもとに実施できる。
 - V 群 22.(1)チーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、対象者を中心とした連携と協働のあり方について説明できる。

- 対象理解と尊重が高かったのは、模擬患者とのコミュニケーション演習の効果。
- 必要な看護援助方法の実施ならびにチーム連携と協働が高かったのは、人々の健康と生活に関する問題解決のプロジェクト学習において、ヘルスポモーションならびにチーム連携と協働を視点として解決策を考案した効果。

3. 初年次学生が「馴染む」ための取り組み

■ 1年次前期必修「看護学概論Ⅰ」

④到達度の共有

- ①科目学修内容との対比提示
- ②授業単元目標との対比提示
- ③科目終了時の到達度評価
- ④到達度の共有

「到達した」

到達目標

60%台	Ⅲ群 8.(1)根拠に基づいた看護を提供するための理論的知識や先行研究の成果を探索し活用できる。
	Ⅲ群 9.(1)批判的思考や分析的方法を活用して、看護計画を立案できる。
	V群18.(3)療養場所を移行するための看護の役割と機能について、説明できる。
	V群22.(2)保健医療福祉サービスの継続性を保障するためにチーム間の連携について説明できる。
	V群23.(1)疾病構造の変遷、疾病対策、保健医療福祉対策の動向と看護の役割について説明できる。

- エビデンスの検索・活用が低かったのは、授業での体験の不足。
- 看護の役割が低かったのは、授業でのおさえの不足。

3. 初年次学生が「馴染む」ための取り組み

■ 1年次後期必修「看護学概論Ⅱ」

④到達度の共有

- ①科目学修内容との対比提示
- ②授業単元目標との対比提示
- ③科目終了時の到達度評価
- ④到達度の共有

「到達した」

到達目標

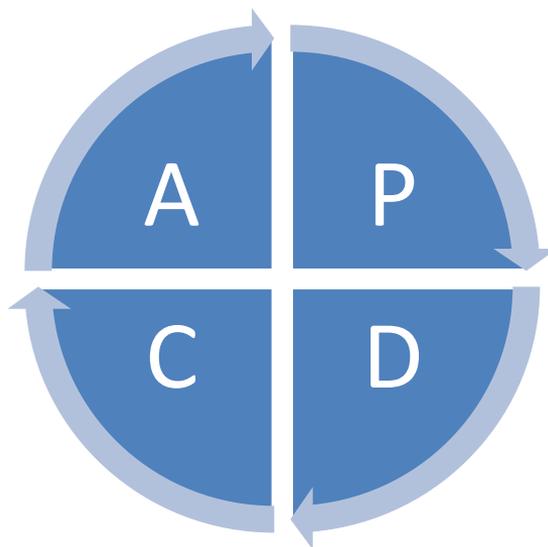
90%台	I 群1.(1)人間や健康を包括的に捉え説明できる。 V 群21.(1)安全なケアをチームとして組織的に提供する意義について説明できる。 V 群21.(2)医療事故防止対策について理解し、そのために必要な行動をとることができる。
60%台	II 群6.(1)実施する看護の根拠(もしくは目的)と方法について、人々に合わせた説明ができる。 III 群8.(1)根拠に基づいた看護を提供するための理論的知識や先行研究の成果を探索し活用できる。

- 対象理解が高かったのは、闘病記ビブリオバトルとプロジェクト学習などに個人で取り組み、対象理解の重要性を繰り返し考察した効果。
- 医療安全が高かったのは、実習で起こりやすい事故事例について、発生要因分析・未然防止策と発生後対応の考案に個人で取り組み、ジグソー学習で成果を共有した効果。

- 対象者に合わせた説明が低かったのは、個人でプロジェクト学習に取り組み、対象者に合わせた説明の難しさを実感したため。
- エビデンスの検索・活用が低かったのは、前期と同様であり、自分の授業の課題。

4. 「使いこなす」ための今後の課題

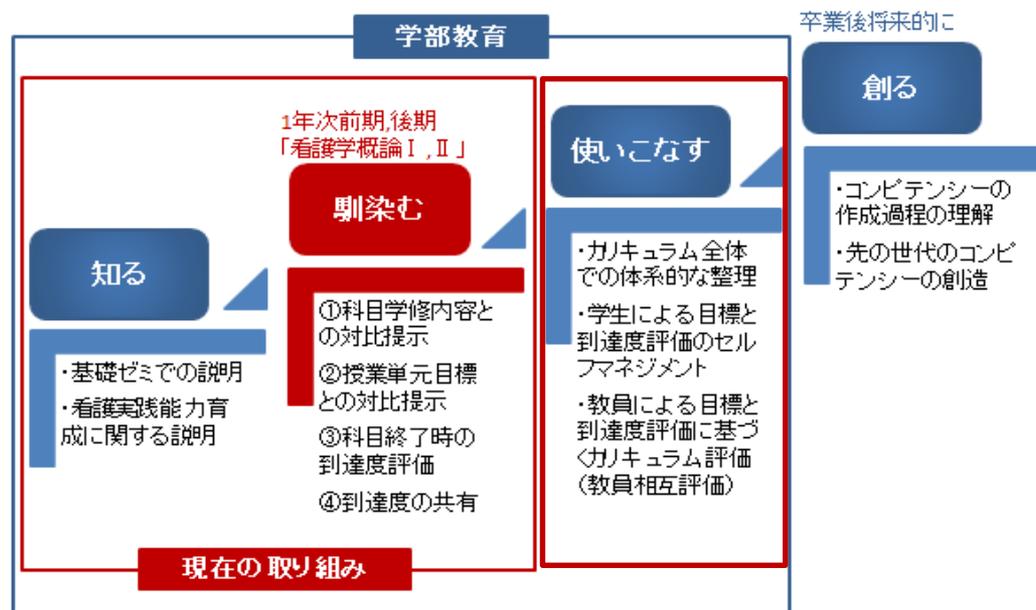
- 「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」を活用して教員として実感したこと
 - 授業改善のヒントの宝庫になる(PDCAサイクルに活かせる)。
 - ・授業設計をする際の科目構成・授業構成の道標となる。
 - ・照らし合わせることで、自身の教育内容の取捨選択ができる。
 - ・学生による到達度の自己評価は授業評価となり、授業改善に役立つ。



4. 「使いこなす」ための今後の課題

■ 今後「使いこなす」ための課題

- カリキュラム全体での体系的な整理をする(カリキュラム改正において現在実施中)。
- 学生による目標と到達度評価のセルフマネジメントができる仕組みを作る。
- 教員相互評価による目標と到達度評価に基づくカリキュラム評価を行う。



- 各校の到達度評価や教育内容を集約することにより、「コアコンピテンシーと卒業時到達目標」の改訂に役立てられる。